

シニア・ストラテジスト
山本 雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

お中(国)元シーズン終了？

<ポイント>

◆昨日は、人民元基準値の切下げが続いたが、下落幅が徐々に小さくなっていることに加えて、人民銀が記者会見を開き、必要な調整は概ね終了し、輸出押上げのための元切下げを否定したことなどから安心感が広がり、豪ドルやアジア通貨および資源価格が一時上昇した。もっとも、欧州時間には原油安もあって豪ドルなどは再び下落した。

◆ドル/円は、人民銀記者会見で更なる大幅切下げ懸念が後退したことを受けて、米利回りが上昇したことから、124.30 円近辺からじり高に向かい、124 円台後半へ上昇、米小売売上高(総合)が予想通り高い伸びだったこともあり一時 124.63 円へ小幅続伸した。

◆本日も引き続き、人民元基準相場が前日よりも元の下落率が縮小するかがまず焦点となるほか、Kent・RBA 総裁補発言、ギリシャ支援問題に関するユーログループ会合、ユーロ圏 2QGDP、米コアPPI、米鉱工業生産、米シガン大消費者信頼感速報などが予定されている。

◆人民元については昨日の人民銀記者会見で今後の大幅元安懸念が後退したが豪ドルやアジア通貨反発は一時的に留まっており、アジア通貨・コモディティ通貨のつれ安が明確に終了するには人民元基準値の上昇が必要とみられる。人民元基準値が再び 1%程度下落する場合、ドル/円は再び 125 円乗せを窺う展開となりそうだ。

◆ユーロ圏 GDP の回復継続が確認され、更に人民元が下落する場合には、ユーロの避難通貨としての位置づけが強まり対ドル、対円で上昇しそうだ。

昨日までの世界:人民銀の市場安定化効果は長続きせず

ドル/円は、人民元基準値の切下げが続いたが、下落幅が徐々に小さくなっていることに加えて、人民銀が記者会見を開き、必要な調整は概ね終了し、輸出押上げのための元切下げを否定したことなどから安心感が広がり、米利回りが上昇したことから、124.30 円近辺からじり高に向かい、124 円台後半へ上昇した。NY 時間入り後に発表された米小売売上高では、通常注目されるコア(除く自動車、ガソリン、建築資材)は前月比+0.3%と市場予想を下回ったが、総合(+0.6%)の予想通りながら高い伸びが確認されたことが好感されてか、一時 124.63 円へ小幅続伸した。但し引けにかけては前日の下落時にドルを売れなかった投資家の売りが持ち込まれたためか上値重く推移し、124 円台前半へ軟化した。

ユーロ/ドルは、人民元に関する懸念後退から、避難通貨としてのユーロの位置づけが弱まったとみられ、1.11ドル台半ばから 1.11ドル手前まで軟化、更に米小売売上高の高い伸びを評価したドル高により一時 1.1080ドルへ続落した。但しその後はドル/円と同様にドル売りが優勢となり、再び 1.11ドル台半ばへ反発して引けている。

ユーロ/円もユーロ/ドルと同様に、138 円台後半から NY 時間にかけて 138.08 円へ下落したが、引けに

かけては一時 138.86 円へ反発した。

豪ドル/米ドルは、人民元基準値が 3 日続落となったことを受けて一時的に下落したものの、下落幅が徐々に縮小していることやその後の人民銀の記者会見を受けて 0.74ドル越えへ強含みとなる局面も見られた。もっとも、上昇は一時的に留まり、むしろその後原油価格が大幅に下落したことや米小売売上高の高い伸びを受けた米ドル高もあって反落し、0.7323 ドルの安値をつけた。但し引けにかけては米ドル売りから 0.73ドル台半ばへ小反発している。

豪ドル/円も同様に、アジア時間に一時 92 円台乗せへ強含みとなった後、NY 時間にかけて 91 円台前半へ大幅反落したが、引けにかけては 91 円台半ばを回復した。

きょうの高慢な偏見:お中(国)元シーズン終了?

[今週の見通しはこちら\(8月10日付FX戦略ウィークリー\)](#)

[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

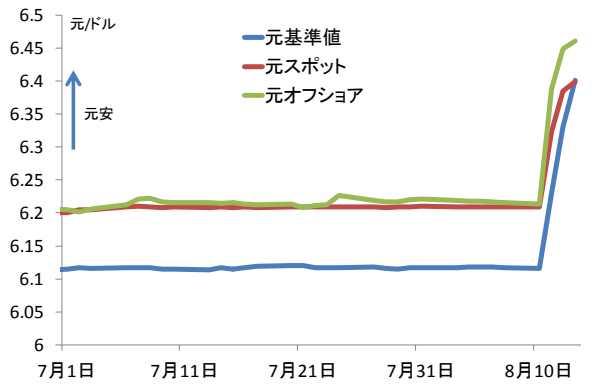
ドル/円は、本日も引き続き、人民元基準相場が前日より元の下落率が縮小するかがまず焦点となる。人民元については昨日の人民銀記者会見で今後の大幅元安懸念が後退したが、豪ドルやアジア通貨反発は一時的に留まっており、アジア通貨・コモディティ通貨のつれ安が明確に終了するには人民元基準値の上昇が必要とみられる。人民元基準値が再び 1%程度下落する場合、ドル/円は再び 125 円乗せを窺う展開となりそうだ(人民元切下げのインプリケーションについては 12 日付投資戦略テーマ「[人民元切下げ:『つれ安』のアナトミー](#)」を参照)。

その他米国では米コア PPI、米鉱工業生産、米シガン大消費者信頼感速報などが予定されているが、米国材料ではドルの方向感が出なさそうだ。鉱工業生産や消費者信頼感回復が予想されておりドル下支え材料となる一方、川上のインフレ圧力を示すコア PPI は前年比+0.5%と伸び鈍化が予想されており、低インフレ長期化が早期利上げ開始シナリオの障害となるリスクがある状況だ。

ユーロ/ドルは、本日発表予定のユーロ圏 2QGDP では前期比+0.4%と回復ペース継続が確認される見込みだが、これに加えて人民元基準値が前日と同程度に下落する場合には、人民元切下げ後にみられているユーロの避難通貨としての位置づけが強まり、ユーロは対ドル、対円で上昇しそうだ。

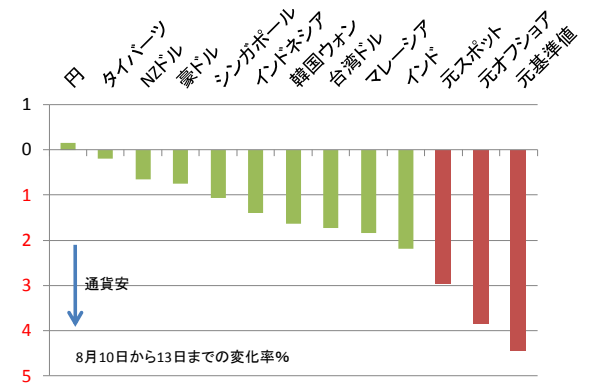
豪ドル/米ドルは、人民元基準値および銅や原油価格などのコモディティ価格動向を睨んだ動きとなり、元切下げとコモディティ価格の下落が継続する場合には、再び年初来安値方向へ下落基調に戻りそうだ。

人民元の対ドル相場(13日まで)



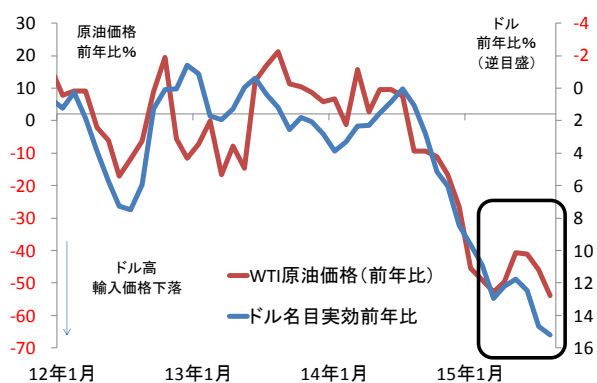
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

アジア太平洋通貨の対ドル変化率



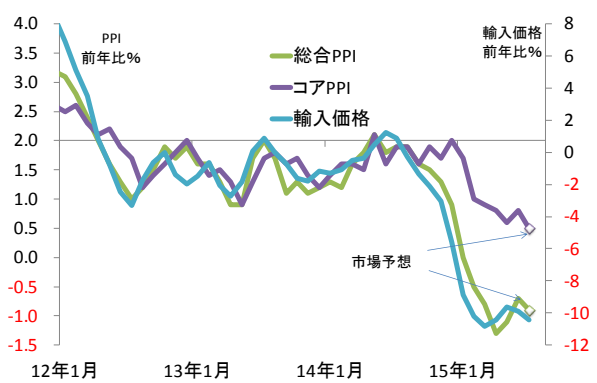
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

米ドルと原油の前年比動向



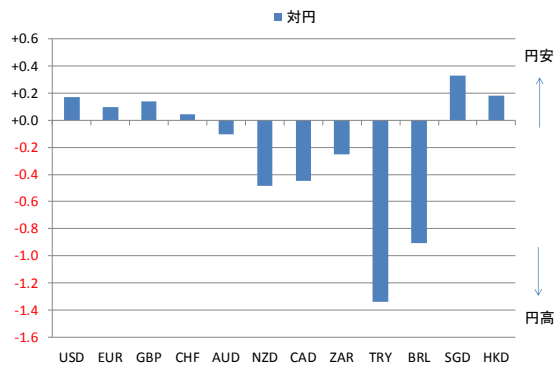
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

米国のPPIインフレ関連指標



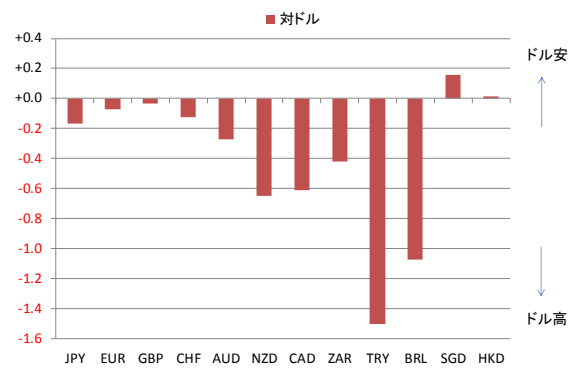
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対円相場(前日比%)



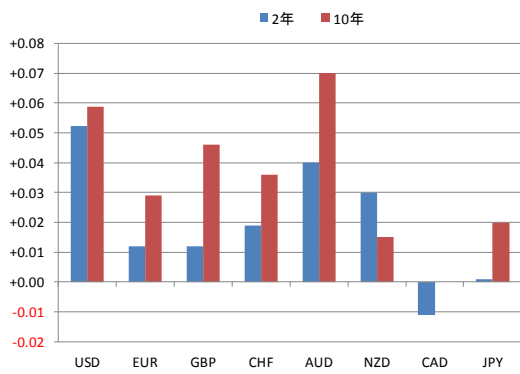
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



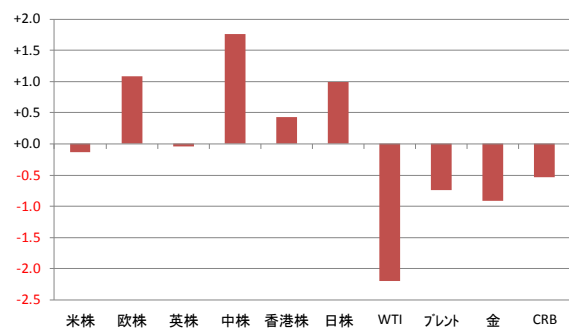
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会